

1996. 10. 1 No.15

Eastern Japan Section, Association of  
College and University Archives of Japan

## 目 次

全国大学史資料協議会設立	1
全国大学史資料協議会規約	2
全国大学史資料協議会東日本部会規約	2
葛飾二館見学雑感	4
「東洋大学百年史」編纂の光と影	5
全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	7
全国大学史資料協議会西日本部会会員名簿	9
1996年度東日本部会総会議事録（抄）	10
常任委員会議事録（抄）	11
東日本部会幹事会議事録（抄）	11
研究部会記録（抄）	11
東日本部会研究部会記録（抄）	11
ミニ情報	12

## 全国大学史資料協議会設立 10月7日に設立記念総会開催

本会は、大学史編纂および資料保存・利用等に関する共通の諸問題を協議し、情報交換をすすめることを目的として1988年6月に「関東地区大学史連絡協議会」として発足した。その後、会員数の増加と会員校所在地域の拡大にともない1993年5月、名称を「東日本大学史連絡協議会」と改称している。

一方、1990年4月には、本会と共に「西日本大学史担当者会」が設立され、1992年に大阪で初めて本会との合同研究部会が開催された。以後、「'93年に東京、「'94年に福岡、「'95年に名古屋と毎年合同研究部会が開催されている。

こうして合同研究部会を積み重ねるなかで東・西の組織を合同して、全国的規模の会を設立しようとする気運が高まり、昨年から両会において合同へむけた具体的検討が進めら

れ、本年5月20日の「東日本大学史連絡協議会」、6月6日の「西日本大学史担当者会」のそれぞれの総会において「全国大学史資料協議会」の設立・規約が承認された。そして本年10月7日、広島大学で全国大学史資料協議会の設立記念総会が開催されることとなったのである。

今回の合同は、東・西の自主的な活動をできるだけ尊重することを前提に実現したもので、本会は「全国大学史資料協議会東日本部会」、西日本大学史担当者会は「全国大学史資料協議会西日本部会」として継続的に活動を進めていくことになる。

今日、大学の高等教育機関としての役割が問われている中で、全国的規模での本協議会の設立が、これからの大を模索する上で、大きく貢献することを望みたい。

## 全 国 大 学 史 资 料 协 谈 会 規 约

## (名称)

第1条 この協議会は、全国大学史資料協議会（Association of College and University Archives of Japan）と称する。

## (目的)

第2条 この協議会は、大学史に関する情報交換と研究、並びに会員相互の質的向上と交流をはかることを目的とする。

## (事業)

第3条 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 大学史に関する情報交換
- (2) 史資料の収集、保存、利用に関する研究
- (3) 研究会（研修会）、講演会の開催
- (4) 会報等の発行
- (5) その他、前条の目的遂行に必要な事項

## (会員)

第4条 会員は、第5条に定める部会に属する大学・短期大学等とする。

## (部会)

第5条 この協議会に次の部会を置き、部会規約は各々別に定める。

- (1) 東日本部会
- (2) 西日本部会

## (役員会)

第6条 この協議会に役員会を置く。

2 役員会は第5条に定める部会の幹事校によって構成され、協議会の運営を協議・決定する。

3 役員会に会長校・副会長校・事務局校を置く。会長校・副会長校は各部会長校が2年ごとに交代で務め、事務局校は役員会の互選により選出する（任期2年）。

4 役員の交代は総会において承認をうける。（総会）

第7条 総会を年1回（10月）開催する。

総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。

## (会計)

第8条 会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

## (経費)

第9条 この協議会に必要な経費は各部会より支出し、経費按分については事業ごとに役員会において決定する。

## (規約の変更)

第10条 この規約は、総会出席者の過半数の賛同をもって変更することができる。

## 付 則

この規約は1996年4月1日より施行する。

## 全 国 大 学 史 资 料 协 谈 会 東 日 本 部 会 規 约

## (名称)

第1条 この部会は、全国大学史資料協議会東日本部会と称する。

## (目的)

第2条 この部会は、全国大学史資料協議会を構成する部会として、大学史に関する情報交換と研究、並びに会員相互の質的向上と交流をはかることを目的とする。

## (事業)

第3条 前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 大学史に関する情報交換
- (2) 史資料の収集、保存、利用に関する研究
- (3) 研究会（研修会）、講演会の開催

## (4) 会報等の発行

## (5) その他、前条の目的遂行に必要な事項(会員)

第4条 会員は、この規約の趣旨に賛同する東日本の大学・短期大学等をもって構成する。

2 個人会員については別に定める。

## (入・退会)

第5条 入会は、所定の入会申込書を部会長に提出し、幹事会の承認を受ける。

2 退会は、書面により部会長に届出る。(幹事)

第6条 部会に次の幹事をおく。

- (1) 部会長 1校

- (2) 副部会長 2校
- (3) 運営委員 若干
- (4) 会計委員 2校
- (5) 監査委員 2校

2 部会に顧問をおくことができる。

(幹事の職務)

第7条 部会長は部会を代表し、会務を掌握する。

2 副部会長は部会長を補佐し、部会長に支障ある時はその職務を代行する。

3 運営委員は部会の運営につき審議・執行する。

4 会計委員は会の会計を担当する。

5 監査委員は会の経理を監査する。

6 幹事は、全国大学史資料協議会を構成する各部会幹事とともに、協議会の役員会を構成し、その運営を協議・決定する。

(幹事の選出及び任期)

第8条 幹事は総会で選出し、任期を2年とする。但し再任は妨げない。

2 顧問の推戴は、総会において行う。

(会議)

第9条 本部会に次の会議をおく。

- (1) 総会
  - (2) 幹事会
  - (3) 部会
- (総会)

第10条 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

2 通常総会は、年1回（5月）開催する。

3 臨時総会は、幹事会が必要と認めたとき、もしくは、会員校の三分の一以上の要求があったときに開催する。

4 総会は部会長が召集し、議長は会員校中から選出する。

5 総会は、会員校三分の二以上の出席をもって成立し、出席校の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

なお、欠席届をもって委任状とみなすことができる。但し、その場合、議決権は認めない。

6 総会は、次の事項を審議する。

- (1) 事業計画及び事業報告
- (2) 予算及び決算
- (3) その他重要な事項

7 総会における決定事項は、全国大学史資料協議会の総会に報告しなければならない。(幹事会)

第11条 幹事会の構成は、部会長、副部会長、運営委員、会計委員とし、監査委員は出席して意見を述べることができる。

2 幹事会は部会長が召集し、会の常務について審議する。

3 議長は部会長が務め、議決は三分の二以上を要する。

(事務局)

第12条 事務局は、幹事の互選により選出された大学におく。

2 事務局校は、部会事務全般を担当する。

3 事務局校は、全国大学史資料協議会を構成する各部会事務局とともに、協議会事務全般を担当する。

(分科会)

第13条 第3条の事業を行うため、必要に応じて分科会を設けることができる。

2 分科会については、別に定める。

(経費・会計)

第14条 この会の経費は、会費及びその他の収入をもってあてる。

2 会費は、1会員校につき年額20,000円とする。

3 会費は、毎年5月末日までに、その年度分を納入しなければならない。

年度途中において加入した会員は、その1ヵ月後までに納入することとする。納入された会費は返戻しない。

(事業年度及び会計年度)

第15条 事業年度及び会計年度は、毎年4月1日から翌年3月末日までとする。

(決算報告)

第16条 決算報告は、監査委員の監査を得てその証明書を添付し、通常総会に報告する。(規約の変更)

第17条 この規約は、総会出席者の過半数の賛同をもって変更することができる。

付 則

1 本規約の実施に必要な細則は、幹事会の議を経て定める。

2 この規約は1996年4月1日から施行する。なお、本規約の施行にともない「東日本大学史連絡協議会規約」は廃止する。

1996年3月7日(木)研究部会(見学会)報告

## 葛飾二館見学雑感

中央大学大学史編纂課 村松 良人

3月の研究部会(第39回)は「葛飾区教育資料館」と「葛飾区郷土と天文の博物館」の二館の見学会であった。

葛飾といえば「寅さん」の故郷であり、映画を通してこの地域の庶民生活を活写してくれ、下町の情緒や情感を伝えてくれたが、最初の「教育資料館」はそんな雰囲気が似合う建物であった。1925(大正14)年に建てられた木造校舎(水元小)の2教室分を移築・復元したものである。面積は敷地が695.54m<sup>2</sup>、建物が252.41m<sup>2</sup>で、1982(昭和57)年3月まで使用していたという。都内では唯一の大正時代の木造校舎で、いまは区の文化財となっている。

教室の中は大正時代を再現したコーナー、往時を偲ぶ暮らしの写真やパネル、文具・教育器材、子どもの遊び道具、さらに農機具類に至るまで約1,400点が展示されていた。



葛飾区教育資料館

当館の喜多山参男氏によればこれらの資料は区民の方々による寄贈や寄託が殆どのこと。いま「開運!なんでも鑑定団」というTV番組が人気で、一見平凡なモノでも時代や地域を語る大切な史料となることも分かったので、展示品をみて家に残っているモノが死蔵の状態であったり、やがて散逸の運命となつては惜しいと寄贈・寄託が増えてくるのではないかだろうか。大いにPRされたい。

そして当館を見学することによって、自分たちの生活と歴史の関係がさらに身近かなものとなり、歴史と文化を大切にしていくことを教えてくれる。また何よりも自分たちの

忘れモノを思いださせてくれる効果がある。

次いで「郷土と天文の博物館」を見学した。1980年代は自治体の博物館建設ラッシュであったが、当館もそうした背景のもとに8年の準備期間を経て、1991(平成3)年7月にオープンした。3140.57m<sup>2</sup>の敷地に1726.91m<sup>2</sup>の建物で、プラネタリウムも併設する偉容である。

そもそも葛飾は地形的に低地で、長い間農村地帯として発展してきた。したがって水とは密接な関わりがあり、民俗学的にも様々な手工業が発達し、優れた職人を生んだ地だ。当館前の曳舟川親水公園は心がやすらぐ散策ロードだが、葛飾も急激な都市化への変貌で川や堀は埋められ圃ったりしてきた。したがって生活の基盤も変化してきたであろう。



葛飾区郷土と天文の博物館

館内は大きく郷土と天文のフロアにわかれており。当館学芸員の橋本直子氏によれば、生涯学習に対する関心とニーズに応えるべく様々な普及事業を展開している。例えば企画展のテーマに沿った体験学習や、館外での移動博物館も実施しているという。

さらにプラネタリウムはアメリカの番組を日本語版にして公開、これは本邦初の取り組みと評価されているとのこと。こうした普及事業の企画や展開は、歴史を学び未来に向かって地域をつくる活動であり敬意を表したい。

歴史とは現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話だと言ったのはE.H.カーだが、全国大半の博物館園の入場者数が減少傾向にある中で、当館の様々な努力はお手本となる。

1996年7月17日(木) 研究部会報告

## 『東洋大学百年史』編纂の光と影

東洋大学井上円了記念学術センター専任研究員 三浦 節夫

『東洋大学百年史』は昭和57年から編纂が開始され13年間の歳月をかけて、通史編2巻、部局史編1巻、資料編4巻、年表・索引編1巻、合計8巻・8000ページで、平成7年に完成了。

教育史の専門家で、本史編纂において学外委員をつとめられた寺崎昌男先生は、「『東洋大学百年史』の完成と新しい課題」(『サティア』19号)において、「この8巻の刊行によつて、日本の私立大学は、量・質ともに第一級の沿革史を加えた」と、本史の特色をあげて評価されている。しかし、編纂経過については「この種の編纂事業の主体が途中から変わるのは珍しい。部外者にはうかがい知れぬ事情があったものと推察した」と、問題があつたことも指摘されている。

この点は事実で、本史の編纂主体は、前半の8年間が創立百年史編纂室、後半の5年間が新設の井上円了記念学術センターであった。このような根本的な変更がなぜ必要であったのか、刊行を終えた時点からこの組織変更を分析してみると、そこには本学の特殊な条件によるものとばかりとは言えない大学史編纂上の一般的な問題もあったと考えられる。

そこで、本稿では百年史の内容ではなく、編纂の組織と運営という実務上で本学が学んだことを記したいと思う。

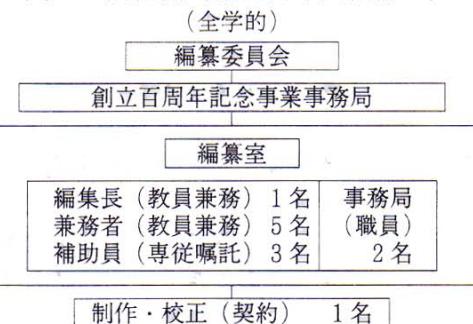
### 旧編纂室の設置から廃止まで

明治20年に哲学館から出発した東洋大学が創立百周年を迎えたのは昭和62年のことである。百年史の編纂はこの記念事業の1つとして、百周年の5年前、昭和57年の創立百年史編纂委員会の設置からはじまった。翌58年には創立百年史編纂室が設置され、編纂要綱に基づいた実質的な活動が開始されたわけである。

当初の計画は9年間(平成2年まで)で、通史編3巻(1巻は部局史関係)、資料編1巻、合計4000ページであった。本学の場合、すでに五十年史、八十年史があったが、百年史はその続編ではなく、改めて資料収集を行

い、新しい展望のもとに年史を編纂しようとした。それには前2回の編纂時に使われた当時の資料がほとんど散逸していたという事情もあった。基本的な資料収集というゼロからスタートし、図1のような組織でその事業を遂行しようとしたのであった。

図1 旧組織(創立百年史編纂室)



制作・校正(契約) 1名

編纂室設置後の主な活動を記すと、教員の編纂兼務の発令・資料収集の編集補助員の設置(59年)、3年間の蓄積を経て創立百周年記念式典までに『図録 東洋大学100年』刊行(62年)、記念事業事務局の解散と編纂事務課の設置・『資料編I・上』刊行(63年)、『資料編I・下』刊行(平成1年)などと、寺崎先生がこの経過を、資料編がまず刊行されるなど旧編纂室によって「資料を確定した上で歴史を叙述する、という歴史執筆のアルファが踏まえられ」ていたと述べているように、編纂は順調に進展していると周囲から見られていた。

しかし、旧編纂室時代の最後の『資料編I・下』の編集経過に、「本編を編纂するに当たって、特に問題点として痛感したことは、第一点として、組織と人員の配置がしばしば変更され、編纂のための体制が必ずしも確立されていなかった」とあり、問題となる状況がすでにあったことがうかがえる。

それには当初の全4巻の計画がこの時点では全8巻へと発展していたことも関係し、編纂組織の拡大と充実が焦点になっていたと思われる。すでに開始から7年間が経過し、当面の事業の推進か、あるいは組織の改革か、

岐路にかかっていた状態であった。

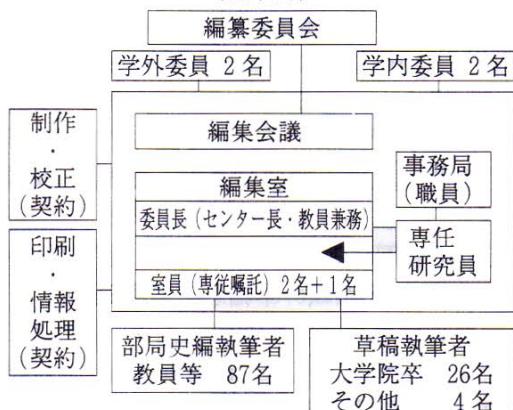
#### センターによる新組織と運営

このような編纂組織の矛盾を解決する目的を含んで、平成2年に設立されたのが井上円了記念学術センターである。センターの設立を促したのは百年史の編纂に先立って教職員有志によって展開された創立者「井上円了の研究」で、昭和53年から9年間継続され、百周年には新書判の『井上円了の教育理念』を刊行し、その成果を結実させたという実績があった。本学ではこの研究をさらに発展させるために、法人立でこのセンターを設置したわけであるが、同時に編纂室を解散し残された編纂事業をここに移管させたのである。

編纂はセンターに移管された時点で、資料収集は完了していたが、全8巻のうち6巻が未刊で、しかも編集計画の詳細も未定で、編纂の半分以上が残されていたとも言える。センターには他の研究と事業もあり、また編纂にはすでに時間と予算を費やしていたから、有利な条件がないままの再スタートであった。

再建は初代の高木宏夫所長（当時社会学部教授）と専任研究員である筆者が担当した。組織化に1年間かかったように困難な問題が多くあったが、図2のような新組織と5カ年で完了するという計画を立案できた。

図2 新組織(井上円了記念学術センター)  
(全学的)



その後の経過を先に述べると、資料整理・目次構成の基礎作業に着手（平成2年）、編集会議と新編纂委員会の設置（3年）、1年間の執筆を経て『部局史編』と『通史編I』刊行（5年）、『資料編II・上下』と『通史編II』刊行（6年）、『年表・索引編』刊行（7年3月）と、最終的に期限内で終了した。



報告する三浦節夫氏

#### 成功の要因と問題

5年間で残りの6巻の資料整理・編集・執筆・印刷までを行うことは容易なことではなく、新組織もはじめから順調に展開したわけではなかった。問題をはらみながらも、成功に導かれたのであるが、その要因のいくつかをつぎに列記したい。

第1が初代の所長の方針である。組織変更があって当然早期の成果が要求されたが、徹底した資料整理など基礎的な作業を優先した。これが後に連続刊行を可能とした。

第2は規程の廃止で旧編纂室の関係者の多くが去ったが、編集補助者の2名が新組織に残り、彼らが編集の主体となったことである。

第3には旧編纂室の解散によって新指導体制を形成しなければならなかつたが、『東京大学百年史』を編纂された寺崎昌男先生と中野実先生が編集会議の学外専門委員として就任され、これによって編纂組織の中心が確立した。しかも、両先生から指導の他に通史編の概説の執筆と全巻の校閲という全面的な協力をいただき、内容面も安心して編纂できた。

第4は執筆者の問題で、旧編纂室が混迷した原因であったと言われている。その時代の最後には6人の執筆・編集の専従者を9年間置く計画があつたが、センターに移管されてもそれは実現されず問題は未解決であった。新たに東大方式が提案された。それは、通史編の草稿は大学院の卒業生に協力を求め、部局史編は学科や事務局など各機関の責任執筆とし編集室は資料提供と編集技術を担当するというものであった。大学院卒による通史編の草稿には精粗があつてその採否について、検討をしなければならなかつた。その原因は執筆までの検討時間の短さと指導の不足と言われている。問題はあったが、これを契機と

して2名の編集員による直接の執筆が促された。教員などによる部局史編の執筆は、関係者が多数に及んだため提出時期に大きな乱れがあったが、ともあれ再建後の最初の刊行となった。



研究部会（7月17日）

第5に、図2のように編纂の機能を分解して分業化（役割分担）を徹底したことが挙げられる。可能な限り作業を単純化して事前作業や並行作業ができるようにした。例えば、入札で採用した印刷業者がコンピュータ処理のできる会社だったので、編纂システムの部分として積極的に組み込んだのである。

以上は成功の主な要因であるが、最後に問

題点を明らかにしておきたい。それは執行責任の問題で、期限を厳守できたのは最終巻だけであった。スタート時の基礎作業と初期の刊行の大幅な遅れが波及し、調整が不可能となつたので、計画の終了時期の厳守を最大の目的に修正した。そのため、執行の遅れとその責任の問題を常時抱えることになった。解決のために特別に補正予算まで組んで刊行を急いだこともあったが、間に合わず経理などの関係機関の信頼を失つたこともあった（これについては『サティア』23号の澤村治氏の文章に詳しい）。スケジュールの問題は責任問題に発展し、編集と事務などの利害が対立した。問題を関係者一同で討議すれば、責任追求になるだけで遅滞の要因をつくるばかりであった。そのため、進行の事実を知るのは筆者一人として、相互に直接関係しないようにしたこともあった。これは編集の現場の条件は最大限に尊重するためであった。

諸条件は苛酷であっても、新設センターにとっては初の大規模な事業であつただけに失敗は許されなかつたが、多くの関係者の協力によって期限内で終了することができた。

### 全国大学史資料協議会東日本部会員名簿

（1996年5月21日現在）

#### 会員校・担当部課室

愛知大学・愛知大学50年史編纂委員会

〒441 豊橋市町畠町1-1

電話：0532-47-4138 FAX：0532-47-4132

学習院大学・学習院大学史料館

〒171 豊島区目白1-5-1

電話：03-3986-0221(内6663)

FAX：03-5992-9219

神奈川大学・大学資料編纂室

〒221 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

電話：045-481-5661(内2241)

FAX：045-481-9300

関東学院・学院史資料室

〒236 横浜市金沢区六浦町4834-1

電話：045-786-7049 FAX：045-786-0787

慶應義塾大学・福澤研究センター

〒108 港区三田2-15-45

電話：03-3453-4511 (内2625)

FAX：03-3769-1564

國學院大學・校史資料課

〒150 渋谷区東4-10-28

電話：03-5466-0104 FAX：03-5485-0152

国際基督教大学・図書館編年史室

〒181 三鷹市大沢3-10-2

電話：0422-33-3057 FAX：0422-33-9887

国士館大学・国士館資料室、理事長室広報課

〒154 世田谷区若林4-31-10柴田会館4階

電話：03-5481-5340

実践女子大学・記念事業事務室

〒191 日野市大坂上4-1-1

電話：0425-85-0301 FAX：0425-85-0327

上智大学・史料室

〒102 千代田区紀尾井町7-1

電話：03-3238-3294 FAX：03-3238-3539

成蹊学園・総務部学園史料館事務室

〒180 武藏野市吉祥寺北町3-3-1

電話：0422-37-3517 FAX：0422-37-3868

専修大学・年史資料室

〒101 千代田区神田神保町3-8  
電話：03-3265-5879 FAX：03-3265-5923

拓殖大学・創立百周年記念事務室

〒112 文京区小日向3-4-14  
電話：03-3947-2261 FAX：03-3947-5333

玉川大学・教育博物館学園史料室

〒194 町田市玉川学園6-1-1  
電話：0427-39-8643 FAX：0427-39-8654

大乘淑徳学園・本部企画室

〒174 板橋区前野町5-5-2  
電話：03-5392-8801 FAX：03-5392-8800

中央大学・大学史編纂課

〒192-03 八王子市東中野742-1  
電話：0426-74-2132 FAX：0426-74-2148

津田塾大学・企画広報課

〒187 小平市津田町2-1-1  
電話：0423-42-5113 FAX：0423-42-5112

東海大学・資料室

〒151 渋谷区富ヶ谷2-28-4  
電話：03-3467-2211 FAX：03-3485-4962

東京基督教大学・歴史資料保存委員会

〒270-13 千葉県印旛郡印西町内野  
3丁目301-5-1

電話：0476-46-1131 FAX：0476-46-1405

東京経済大学・百年史編纂室

〒185 国分寺市南町1-7  
電話：0423-28-7724 FAX：0423-24-1354

東京女子医科大学・史料室・吉岡彌生記念室

〒162 新宿区河田町8-1  
電話：03-3353-8111(内22213)  
FAX：03-5269-7402

東京農業大学・図書館

〒156 世田谷区桜ヶ丘1-1-1  
電話：03-5477-2525(D1)  
FAX：03-5477-2632

東北学院大学・広報室

〒980 仙台市青葉区土樋1丁目3-1  
電話：022-264-6423 FAX：022-264-6458

東洋大学・井上円了記念学術センター

〒112 文京区白山5-28-20  
電話：03-3945-7555 FAX：03-3945-7601

獨協学園・百年史編纂室

〒340 草加市学園町1-1  
電話：0489-42-1111 FAX：0489-42-6756

日本工業大学・総務課

〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1  
電話：0480-34-4111(代) FAX：0480-34-2941

日本女子大学・成瀬記念館

〒112 文京区目白台2-8-1  
電話：03-3942-6187 FAX：03-3942-6182

日本大学・大学史編纂室

〒102 千代田区九段南4丁目8-24  
電話：03-5275-8036 FAX：03-5275-8325

法政大学・総合企画部

〒102 千代田区富士見2-17-1  
電話：03-3264-9365 FAX：03-3264-9639

宮城学院女子大学・宮城学院資料室

〒981 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1  
電話：022-279-7765 FAX：022-279-7566

武蔵学園・武蔵学園記念室

〒176 練馬区豊玉上1-26-1  
電話：03-5984-3748 FAX：03-5984-3871

武蔵野美術大学・大学史史料室

〒187 小平市小川町1-736  
電話：0423-41-5011 FAX：0423-42-6544

明治大学・総務部歴史編纂事務室

〒101 千代田区神田駿河台1-1  
電話：03-3296-4085~6  
FAX：03-3296-4087(広報部)

立教大学・図書館大学史資料室

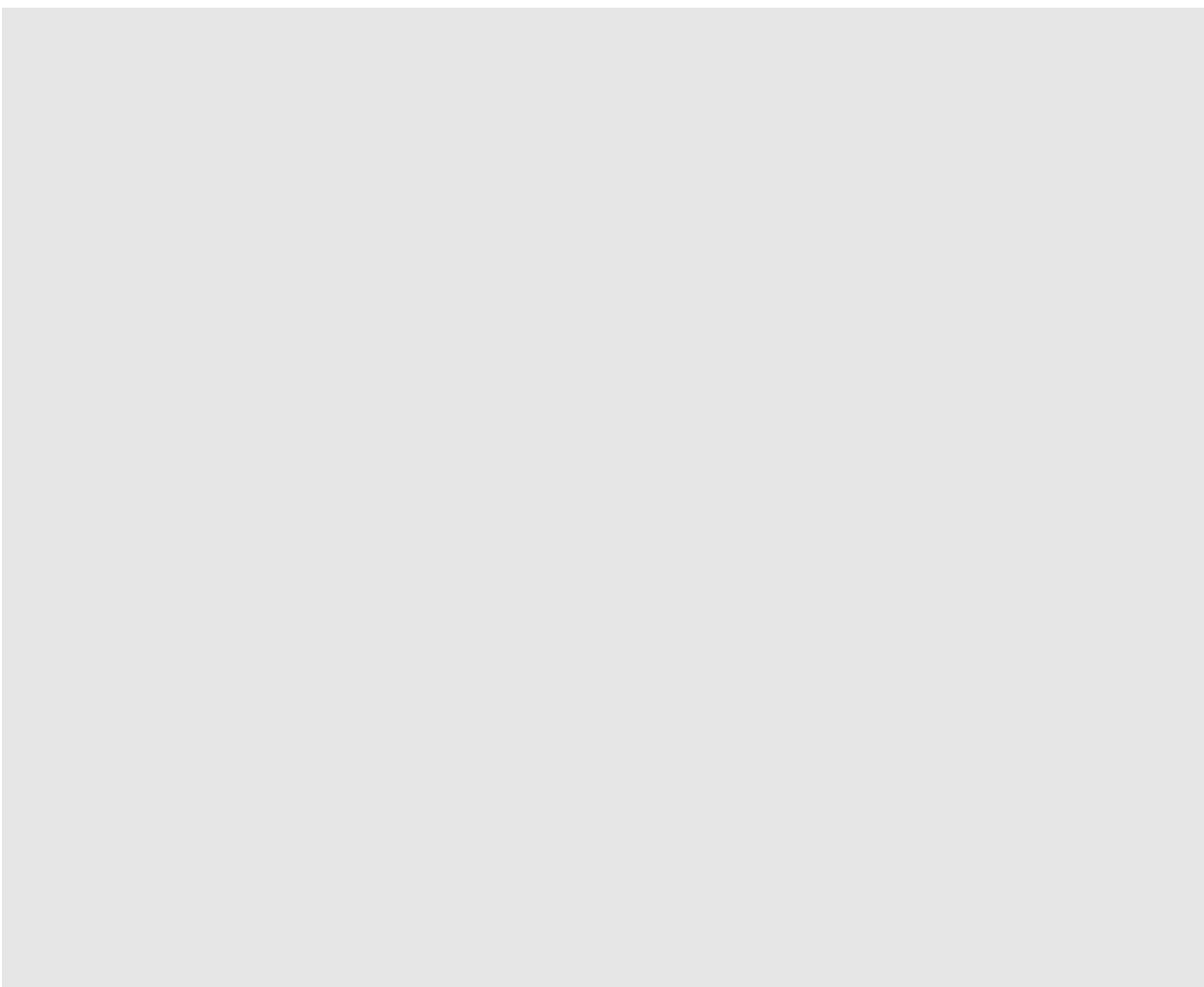
〒171 豊島区西池袋3-34-1  
電話：03-3985-2693 FAX：03-3985-2819

立正大学学園・企画室

〒141 品川区大崎4-2-16  
電話：03-3492-5165 FAX：03-5487-3340

早稲田大学・大学史編集所

〒169-50 新宿区西早稲田1-6-1  
電話：03-3232-5668 FAX：03-5286-1815



### 全国大学史資料協議会西日本部会会員名簿

(1996年6月6日現在)

#### 会員校・担当部課室

大阪経済大学・総務部

〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8

電話：06-328-2431 FAX：06-323-4790

大阪国際学園・広報室

〒570 守口市藤田町6-21-57

電話：06-907-4308 FAX：06-902-8961

大谷大学・真宗総合研究所

〒602 京都市上京区寺町通今出川上ル2丁目

電話：075-212-5500 FAX：075-212-5501

追手門学院大学・庶務課企画係

〒567 茨木市西安威2-1-15

電話：0726-43-5421 FAX：0726-43-5427

関西大学・事業局出版部出版課

〒564 吹田市山手町3-3-35

電話：06-368-0237 FAX：06-389-5162

#### 関西学院・学院史資料室

〒662 西宮市上ヶ原1-1-155

電話：0798-54-6021 FAX：0798-54-6462

頌栄短期大学・大学史資料室

〒658 神戸市東灘区御影山手1-18-1

電話：078-842-2541

甲南学園・企画部広報課・学園史資料室

〒658 神戸市東灘区岡本8-9-1

電話：078-435-2314 FAX：078-435-2546

神戸国際大学・資料編纂室

〒655 神戸市垂水区学が丘5-1-1

電話：078-709-3851 FAX：078-708-7000

神戸松蔭女子学院大学・総務課資料室

〒657 神戸市灘区篠原伯母野町1-2-1

電話：078-882-6122 FAX：078-801-1185

## 神戸女学院・史料室

〒662 西宮市岡田山4-1

電話：0798-51-8503

## 神戸山手学園・学園史編纂委員会事務局

〒650 神戸市中央区諏訪山町3-1

電話：078-371-6151 FAX：078-371-6166

## 西南学院大学・広報・調査課

〒814 福岡市早良区西新6-2-92

電話：092-823-3232 FAX：092-823-3249

## 谷岡学園（大阪商業大学）・広報課

〒577 東大阪市御厨栄町4-1-1

電話：06-781-9745 FAX：06-781-9849

## 天理大学・入試広報部広報課

〒632 奈良県天理市杣之内町1050

電話：07436-3-1515 FAX：07436-3-7886

## 同志社大学・同志社社史資料室

〒602 京都市上京区今出川通烏丸東入601

電話：075-251-3048 FAX：075-251-3055

## 同志社女子大学・史料室

〒602 京都市上京区今出川通寺町西入

電話：075-251-4200 FAX：075-251-4288

## 南山学園・学園史料室

〒466 名古屋市昭和区五軒家町6

電話：052-832-1364 FAX：052-834-9973

## 梅花学園・総務部資料室

〒567 茨木市宿久庄2-19-5

電話：0726-43-6221 FAX：0726-41-5244

## 福岡大学・大学史資料室

〒814-80 福岡市城南区七隈8-19-1

電話：092-871-6631 FAX：092-864-9415

## 全国大学史資料協議会東日本部会

## 1996年度総会議事録（抄）

（旧称 東日本大学史連絡協議会）

日 時 1996年5月20日(月) 14時～15時

場 所 中央大学駿河台記念館 480号室

出席校 25大学 6個人会員（計51名）

開会の挨拶 明治大学 松井 苗子氏

（歴史編纂事務室事務長）

議長の選出

議 長 國學院大學 益井 邦夫氏

副議長 東北学院 松浦 平蔵氏

議 事 1. 全国大学史資料協議会の設立について

「全国大学史資料協議会規約

## 佛教大学 企画部広報調査課

〒603 京都市北区柴野北花ノ坊町96

電話：075-491-2141 FAX：075-493-9040

## 桃山学院・学院年史委員会

〒590-02 和泉市まなび野1-1

電話：0725-54-3131 FAX：0725-54-3200

## 立命館・百年史編纂室

〒603-77 京都市北区等持院北町56-1

電話：075-465-8209 FAX：075-465-7859

## 龍谷大学・大学史誌編纂室

〒612-77 京都市伏見区深草塚本町67

電話：075-645-7883 FAX：075-642-8867

※西日本部会会員名簿については、『西日本大学史担当者会会報』第8号より転載いたしました。

（案）及び「全国大学史資料協議会東日本部会規約（案）」の両規約（案）を原案通り承認し、本年4月1日付にて全国大学史資料協議会の設立を決議した。

2. 1995年度事業報告・同決算報告について（承認）

3. 1996年度事業計画案・同予算案について（承認）

4. 役員の選出について（承認）

部 会 長 神奈川大学

副部会長 中央大学

東海大学

運営委員 慶應義塾大学

國學院大學

	武藏野美術大学
	明治大学
会計委員	成蹊学園
	東京農業大学
監査委員	玉川大学
	日本大学
	(任期2年)

#### 5. その他

閉会の挨拶 中央大学 村松 良人氏  
 (広報部大学史編纂課長)  
 懇親会 15時～16時40分 出席者47名

#### 東日本大学史連絡協議会

##### 常任委員会議事録(抄)

第56回	1996年3月7日(木)	15時30分～16時30分
会 場	葛飾区郷土と天文の博物館 会議室	
出席校	神奈川大学 慶應義塾 國學院大學 玉川大学 中央大学 東海大学 日本大学 武藏野美術大学 明治大学	
議 事	(1) 合同協議会設立にともなう部会規約の作成の件について (2) 1996年度の活動計画について (3) その他	
第57回	1996年4月15日(月)	13時～15時
会 場	中央大学駿河台記念館 580号室	
出席校	神奈川大学 慶應義塾 國學院大學 成蹊学園 玉川大学 中央大学 東海大学 東京農業大学 日本大学 武藏野美術大学 明治大学	
議 事	(1) 1996年度の総会について (2) 1996年度の活動計画について (3) その他	
第58回	1996年5月20日(月)	13時～14時
会 場	中央大学駿河台記念館 480号室	
出席校	神奈川大学 慶應義塾 國學院大學 成蹊学園 玉川大学 中央大学 東海大学 東京農業大学 日本大学 武藏野美術大学 明治大学	
議 事	(1) 1996年度総会準備作業について (2) 1996年度の活動計画について (3) その他	

#### 全国大学史資料協議会東日本部会 幹事会議事録(抄)

第1回	1996年7月17日(水)	13時～14時
会 場	東洋大学2号館16階スカイホール	
出席校	神奈川大学 慶應義塾 國學院大學 成蹊学園 玉川大学 中央大学 東海大学 東京農業大学 日本大学 武藏野美術大学 明治大学	
議 事	(1) 全国大学史資料協議会設立記念総会について (2) 会報発行・パンフレット作成・記念誌編纂について (3) その他	

#### 東日本大学史連絡協議会

##### 研究部会記録(抄)

第39回	1996年3月7日(木)	13時～15時30分
	(見学会)	
参加校	19大学 1個人会員 25名	
会 場	1. 葛飾区教育資料館 2. 葛飾区郷土と天文の博物館	

※見学会の内容につきましては、本号に掲載した村松良人氏の報告をご参照ください。



葛飾・曳舟川親水公園

#### 全国大学史資料協議会東日本部会

##### 研究部会記録(抄)

第1回	1996年7月17日(水)	14時～15時30分
会 場	東洋大学2号館16階スカイホール	
参加校	23大学 2個人会員 36名	
	西日本部会会員 3名	
報 告	三浦節夫氏 (東洋大学井上円了記念学術センター専任研究員) 『東洋大学百年史』編纂の光と影	

※研究部会の内容につきましては、本号に掲載した三浦節夫氏の報告をご参照ください。

## 三二情報

### ※『絵画に描かれた早稲田の人と風景』展 開催、小冊子刊行

早稲田大学大学史編集所主催で、大学所蔵の肖像画、風景画のうちから、草創期から大正にかけて学苑を築いていった人々とその時代を象徴する建物などが描かれたものを約30点選び、本年3月から4月にかけて展示した。出品資料の解説（小冊子20ページ）を刊行。

なお、来る10月7日から26日まで、『絵画に描かれた早稲田の人と風景』パート2として、大正期から昭和に活躍した人々を取り上げた企画を予定している。

また、つぎの記念講演を開催する。「大山郁夫」（正田健一郎）、「角田柳作」（鹿野政直）、「金子馬治」（小山宙丸）。

（問い合わせ先：早稲田大学大学史編集所  
TEL03-5286-1815）

### ※明治大学だより

明治大学では昨年（1995年）3月、『明治大学百年史』第4巻（通史編Ⅱ）、および『明治大学史紀要』第13号を刊行した。そのことにより、1977（昭和52）年以来（実際には1960年から）継続してきたところの100周年記念事業『明治大学百年史』編纂は終わった。

そして今後は大学史料館の開設、および次の年史の編纂をめざすことになった。そのため歴史編纂事務室は継続し、また運営のための委員会は従来の「百年史編纂委員会」を解散し、新たに「大学史料委員会」として発足することとなった。

このような体制により、昨年4月以降、主に以下のような事業・活動を行ってきた。

- ① 「大学発祥の地」記念碑建立パンフレット『明治大学の発祥』（非売品）の編集
- ② 明治大学記念館さよならイベント「明治大学記念館歴史展」開催
- ③ 「戦争と教育展」協力展示
- ④ 『歴史編纂事務室報告』第13集「明治大学記念館の歴史と資料」（1部500円）の編集・刊行
- ⑤ 広報部『明治大学記念館・歴史とその資料』（1部3,500円）の執筆

なお、目下、『歴史編纂事務室報告』第14集と大学史紀要『紫紺の歴程』（『明治大学史紀要』改題）を編集中である。

その他、1996年4月20日、福井県鯖江市の中央公民館において同市主催で「東京時代の矢代操」（矢代は同市の生んだ明治大学創立者）という講演会があり、当室員の鈴木秀幸が講演した。

以上の詳細については、明治大学歴史編纂事務室（〒101東京都千代田区神田駿河台1-1, ☎03-3296-4085, FAX03-3296-4086）まで、お願いします。

### ※『立教学院百二十五年史－資料編第1巻』 の出版

1989年から編纂が進められてきた『立教学院百二十五年史』（資料編第1巻）が5月に刊行された。収録資料の範囲は1874（明治7）年の立教学校創設から、1951（昭和26）年学校法人立教学院に認可されるまでの旧制時代である。「Introduction 立教学院沿革図と沿革史」以下15章から構成され各章節に解題が付されている（和英文）。（本会報編集者）

## ご案内

※東日本大学史連絡協議会は今年度から全国大学史資料協議会東日本部会となりました。全国大学史資料協議会及び同東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記事務局へご連絡ください。

〈事務局〉  
中央大学広報部大学史編纂課  
〒192-03 東京都八王子市東中野742-1  
☎ 0426-74-2132

### 会報編集担当

神奈川大学大学資料編纂室
〒221 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎ 045-481-5661
東海大学資料室
〒151 渋谷区富ヶ谷2-28-4
☎ 03-3467-2211
中野 実（東京大学大学史史料室）
〒113 文京区本郷7-3-1
☎ 03-3812-2111